

する也、尤細水さしを用ゆ、水さしの蓋は左の手にて、勝手の方より水さしへもたず、茶器茶わん茶筥常の如く、蓋置は水さしの胴へ置く、中仕舞ひなし、炭取は小ぶりなるを用ゆ、火箸をおろさず、帑は棚か建水の向ふ。

〔和泉草〕風爐手前之有増

一 釜ニ向茶ヲ立ル時、眞行草ノツクバイ有、眞ノツクバイト云ハ、兩ノ膝ヲ割、足ヲヒラキ敷テ、カメノ尾ヲ疊ヘ付様ニ居ル也、是拜賀ノツクバイト云也、行ハカシコマルナリ、草ハ片ヒザ立ル也、片膝立ル時、風爐圍爐裏トモニ、道具ノ有方ノヒザノ、ヒクキ様ニヒザヲ鋪物也、片々ノ膝ハ前ヘハツシ、衣装ノ内ニ足ノ有様ニ敷吉拜賀ノツクバイト云ハ、禁中ニテ公家衆加冠ノ時ノカシコマリ様也、後ヘモ前ヘモ脇ヘモコロバヌ畏様也。

一 釜ニ向客ニ背ト云居住居有、風爐ト居住居ノ間ハ、少遠キ方吉、近キ時ハ諸具ノ扱ヒニ構也、釜ニ柄杓ヲ掛ル時ノ身ヲ前ヘ掛ル様ニシテ柄杓ヲ掛ル物也、此時少尻ノ浮心程ニ風爐ヘ遠ク居テ吉。

一 諸具扱所々ヘ直シ、水飜ハ左ノ膝ヲハツシ、向ヘ出置ベシ。

一 柄杓ノ扱釜ニ置時、肩ニテ置ベシ、手サキニテ置ハ、惡シ、肩ニテ置ク心持吉。

一 釜ニ柄杓置様、ムスビテ置一ツ、引柄杓二ツ三ツ、切柄杓一ツ二ツ、世上ニサマト有之ト見ヘタリ、高人御前ニテ、目ニ立柄杓扱セヌ事也。

一 左勝手右勝手置合、有増ハ左勝手ヲ打返シタル物也、少宛ノ違有トモ、書ニ難顯也。

〔貞要集〕略手前之事

一 略手前と云は、有樂流の極秘にて眞置候田織も、むぎと傳授は無之候、御門弟の内二三一人ならでは知人無之候、總而手前の内に我人忘る、事はおほし、此略手前は忘たる所を手前の其一ツ